



学校だより 10月号

令和8年9月30日発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

実りの秋～学び続ける大人と、ともに育つ子どもたち～

校長 藁科 直希



「秋の長雨」という言葉がぴったりの日が続いておりますが、そのような天候の中でも、子どもたちは体育館や校内を上手に活用しながら、「かもりんピック（運動会）」に向けた練習や係活動に意欲的に取り組んでいます。

低・中・高学年ブロックでの演技練習では、お互いの演技を見合いながら、よいところやさらによくするためのコツを伝え合う姿が見られます。上級生が下級生のお手本になろうと張り切る姿、下級生が上級生に憧れの気持ちを抱く姿など、学び合い、高め合う本校らしい光景が広がっています。

さて、本校では昨年度の「リーディング DX スクール事業」に続き、今年度は「生成 AI パイロット校」としての取組や重点研究を進めるなど、これからの社会を生きる子どもたちに必要な学びの実現に向けて挑戦を重ねています。先日、継続して本校の授業を参観してくださっている大学の先生や教育委員会、民間企業の皆様から、次のような励みになる言葉をいただきました。

- ・子どもたちが素直で、生き生きと学んでいる
- ・学ぶことの楽しさや価値が低学年から育まれている
- ・生成 AI を主体的に活用するための学びが行われている
- ・学校全体に学び合う文化が根付いている
- ・先生方が学び続け、その成果をすぐに実践へ生かしている



こうした言葉から改めて感じるのは、本校の子どもたちが友達や先生との関わりを通して主体的に学びを深めているということです。タブレットや生成 AI などの新しいツールを活用しながらも、人と人との対話や協働を大切にしている姿は、本校が目指してきた学びそのものだと感じています。

また、その背景には、教職員自身が学ぶことを楽しみながら、よりよい授業づくりに向けて挑戦を続けている姿があります。大人が学び続ける姿は子どもたちの意欲につながり、子どもたちの成長は教職員の大きな励みとなります。このような温かな「学びの循環」が学校全体に広がっていることを大変うれしく思います。子どもたちの日々の学びの様子については、学校ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

さらに、4月に実施された全国学力・学習状況調査では、6年生の90%以上の児童が「学校に行くのは楽しい」と回答しました。全国平均の85.7%を上回る結果ともなり、子どもたちが安心して学び、自分らしく過ごせる学校であることの表れであると考えています。

「学ぶことは楽しい」

この思いを子どもたちと教職員が共有しながら、実り多きこの秋、子どもたち一人ひとりがさらなる成長と学びの深まりを実感できるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

